

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025 年 7 月 31 日

テーマ「学生生活支援の充実（寮）」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)学生活動支援機構長
古川 靖洋
(学生活動支援機構)

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略（テーマ名）	統轄部署
1 学士課程教育	(15) 学生生活支援の充実（寮）	学生活動支援機構 (レジデンスセンター)
内容 「本学が運営する寮で目指すべき寮教育のあり方及び寮での国際理解教育推進方針」（2023 年 10 月 6 日大学評議会承認）に基づき、寮での国際理解教育を推進する。 キャンパスの「内なる国際化」を推進するため、一部の寮を除く学生寮と国際学生レジデンスにおいて、日本人学生と留学生の共住比率を高め、その環境整備を図る。また、日本人学生と留学生が共同生活を送る中で文化・宗教・習慣・考え方・感じ方の違いを知り、そこから生じる障壁を乗り越えながら相互の理解を深めることで、寮を全人的な成長のための学びの場として位置付ける。なお、有光寮を「国際教育寮」として位置づけ、それ以外の寮においても、その特色や個性、よき伝統を尊重しながら、濃淡のある国際理解教育を推進する。 本学が運営する寮で目指す寮教育のあり方について、以下のとおり定義する。 ● 関西学院大学では、「Mastery for Service」を体現する世界市民」を涵養する「学び」の場としての寮生活を重視する。寮生は、寮での共同生活を通して、互いに多様な価値観を共有しながら、非認知的能力、汎用的能力を涵養する。また、大学は、寮生が主体的に行動する力や豊かな人間関係を築く力、対立する価値を調整する力等を養い、コミュニケーション能力に優れた社会性を身につけ、垣根なき共同体を築く一員となれるような教育、支援を行う。 ● また、キャンパスの「内なる国際化」を推進するため、一部の寮を除き日本人学生と留学生の共住比率を高める。各寮では、それぞれの特色や個性を尊重しつつも、寮生が多様性を理解し、多文化共生の能力、感覚を涵養できるような学びの機会の充実を図る。 ● 特に、有光寮は「国際教育寮」として位置づけ、寮生に対して、アカデミックプログラムや、キャリア形成に必要なセミナーなど、グローバル社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を行う教育プログラムを展開する。 なお、2022 年 4 月に新設した「レジデンスセンター」においては、KSC のインキュベーション施設（2025 年供用開始予定）に併設する学生寮にかかる業務も管轄し、外部委託を活用しつつ全学的な寮業務の集約化を推進する。また、寮についてはこれまで居住する学生・外国人留学生を学院が寮生に見えない形で財政負担していることから、寮生・保証人に寮の収支状況等を明示することにより、理解を得て寮費を適宜値上げし、より適正な金額に近づけることを検討する。 【フェーズⅡの Total Review】 ・「有光寮」を開設し、外国人留学生宿舎が確保できた。 ・国際混住寮への転換については、「有光寮」を起点として、可能な範囲から進めていくこととなる。 ・ポスト SGU を見据えた寮政策については、2023 年度中に方針が定まるため、引き続き検討を行う。 【フェーズⅢに向けた課題】 ・学生支援機構に附置されるレジデンスセンターにおいて、国際混住寮の運営体制の切り分けを明確にする必要がある。 ・国際混住寮への転換を、学生寮の自治ともすり合わせながら実施していく必要がある。 ・KSC 学生寮も視野にいれ、レジデンスセンターを中心としたさらなる連携が必要となる。 ・寮アメニティ充実施策の検討（無人コンビニの誘致など） ・寮生活（教育）の経験有無による学修成果の検証。		

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025年7月31日

テーマ「学生生活支援の充実（寮）」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)学生活動支援機構長
古川 靖洋
(学生活動支援機構)

指標 1

指標	内容					
指標名	RA（レジデント・アシスタント）学生の学修成果測定（国際理解教育の充実度）					
定義・算式	RAの国際理解教育に対する学修成果。RAを対象とし毎学期終了時に実施する達成度確認（アンケート）において、「国際教育理解」に関する評価項目の達成度（5段階評価）の平均値で算出。					
現状値 (指標設定時)	なし（2024年度春学期時点では測定しておらず、同年度秋学期より測定予定）					
目標値	フェーズ1終了時（2021年度）		フェーズ2終了時（2024年度）		フェーズ3終了時（2027年度）	
			—		5	
実績値	2019年度	—	2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度	—	2026年度	
	2021年度		2024年度	4.60	2027年度	

指標 2

指標	内容					
指標名	男子3寮（啓明寮・静修寮・成全寮）および聖和寮での留学生入居比率					
定義・算式	留学生入居比率（該当寮の留学生入居者数（5月1日現在）/該当寮の定員数）の平均が12%程度					
現状値 (指標設定時)	2024年5月1日現在 啓明寮9名、静修寮4名、成全寮3名、聖和寮6名が入居しており、4寮の合計は22名（ $22/228 = 9.6\%$ ）となっている。					
目標値	フェーズ1終了時（2021年度）		フェーズ2終了時（2024年度）		フェーズ3終了時（2027年度）	
					12%程度	
実績値	2019年度		2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度	3.1%	2026年度	
	2021年度		2024年度	9.6%	2027年度	

指標 3

指標	内容					
指標名	国際学生レジデンスVの日本人学生入居比率					
定義・算式	日本人学生入居比率（該当寮の日本人学生入居者数（5月1日現在）/当寮の定員数）の平均が20%～30%					
現状値 (指標設定時)	2024年5月1日現在 レジデンスVの日本人学生数10名（内7名RA）（ $10/72 = 13.9\%$ ）					
目標値	フェーズ1終了時（2021年度）		フェーズ2終了時（2024年度）		フェーズ3終了時（2027年度）	
					20～30%	
実績値	2019年度		2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度	8.3%	2026年度	
	2021年度		2024年度	13.9%	2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025年7月31日

テーマ「学生生活支援の充実（寮）」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)学生活動支援機構長
古川 靖洋
(学生活動支援機構)

指標 4

指標	内容					
指標名	有光寮での日本人学生入居比率					
定義・算式	日本人学生入居比率(有光寮の日本人学生入居者数(5月1日現在)/有光寮の定員数)が40%程度					
現状値 (指標設定時)	2024年5月1日現在 有光寮の日本人学生数 19名(内8名RA)(19/81=23.5%)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
					40%程度	
実績値	2019年度		2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度	27.2%	2026年度	
	2021年度		2024年度	23.5%	2027年度	

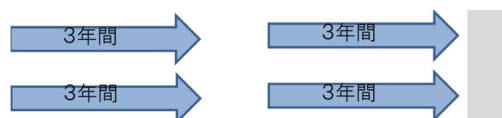
2. 実施計画ロードマップ

実施計画		担当部署	学部・研究科での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
①	混住寮の国際理解教育の推進	学生活動支援機構（レジデンスセンター）	必要なし	3年間			3年間			3年間		
【備考欄】												

※想定される実施計画の例示

- ① シミュレーション作成
- ② 男子寮の混住化
- ③ 在寮期間短縮の検討
- ④ 寮集約の検討

※ロードマップ策定作



I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学生生活支援の充実（寮）」

提出日 2025 年 7 月 31 日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

学生活動支援機構長
古川 靖洋
(学生活動支援機構)

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計（2019 年度～2027 年度）

◆フェーズⅠ：2019 年度～2021 年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019 年度	2020 年度	2021 年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

◆フェーズⅡ：2022 年度～2024 年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022 年度	2023 年度	2024 年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

◆フェーズⅢ：2025 年度～2027 年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025 年度	2026 年度	2027 年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019 年度	
2020 年度	
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	2024 年度からレジデンスセンターの附置先が学生活動支援機構となり、それに合わせて関連規程の制定・改正を行った。
2024 年度	2024 年度末に神戸三田キャンパスに隣接する C-ビレッジ内に創新寮（G-ドーム）を設置した。 国際学生レジデンス V（宝塚市桜が丘）は 2026 年 8 月末に 10 年間の定期建物賃貸借契約が終了する。現入居者の入居期間（2 年間）確保のため 2027 年 3 月末までの延長（再契約）を貸主に依頼するが、それ以降については、レジデンス V の立地条件の悪さや有光寮・提携寮が設置されたことを踏まえて再契約はしない方向で調整を進めている。その場合、RA の配置寮や新しい宿舍の確保等について検討が必要になる。
2025 年度	
2026 年度	
2027 年度	